

大学教育学会第40回大会

ラウンドテーブル6

日本における大学教職員職能開発プログラムの新展開—新たなステージへの挑戦

大学における教育・学修支援の専門職能開発 —千葉大学ALPSプログラムの構築と運営—

報告者：岡田聡志

千葉大学アカデミック・リンク・センター

2018年6月9日（土）10:00～12:00

於：筑波大学5C棟

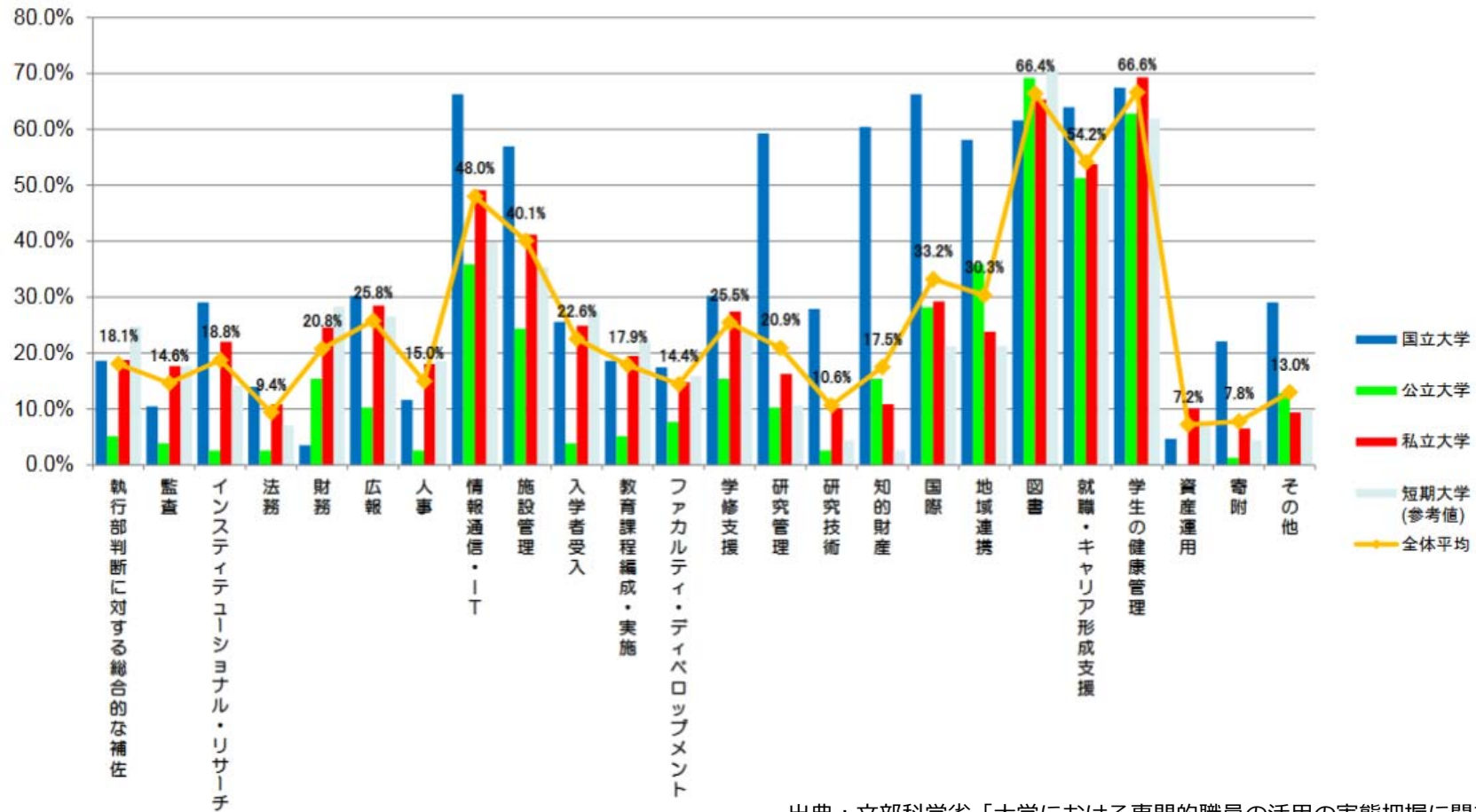
報告の構成

1. なぜ教育・学修支援なのか？
2. ALPSプログラムまでのプロセスと全体像
3. プログラムはどのように設計されたか？
4. どのような学習が行われているか？
5. 今後の方向性

1. なぜ教育・学修支援なのか？

- 大学教育の現代的特徴と社会的・政策的要請を背景とした
 - 効果的な教育を実現するための教育支援の必要性
 - 個々の学生に応じた適切な学修支援の必要性
ex. 中教審答申『大学教育の質的転換』（2012年8月）
- 大学「職員」の意味の変化
 - 「専門的職員」「第三の専門職」の議論
 - SDの範囲の変化
 - 海外の状況（ACPA & NASPA、NACADA、UKPSFなど）
- 国内における実践事例の広がり
 - 国際基督教大学：アカデミックプランニング・センター
 - 関西大学：学修コンシェルジュ
 - 愛知みずほ大学：学修コンシェルジュ
 - 北海道大学：ラーニングサポート室

「学習支援」専門的職員の配置状況（2015年度）



出典：文部科学省「大学における専門的職員の活用の実態把握に関する調査」

千葉大学：図書系による教育・学修支援

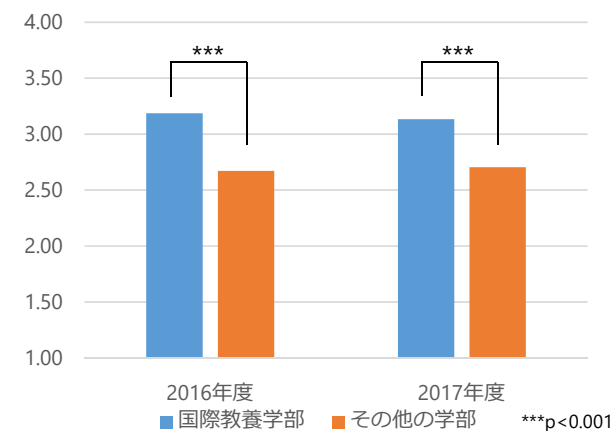
- 附属図書館、普遍教育センター*、情報基盤センター*の共同により学内共同利用施設として**Academic Link Center**を設置
 - 「アクティブ・ラーニング・スペース」「コンテンツ・ラボ」「ティーチング・ハブ」の3つ機能
 - ALSA (Academic Link Student Assistant) : GS・TT・LS
 - 動画や教材等のコンテンツ作成支援
 - FDやセミナー等の実施
 - 「教職協働」をコンセプトに組み入れた組織運営



ALSAによる分野別学習相談

千葉大学：学務系による教育・学修支援

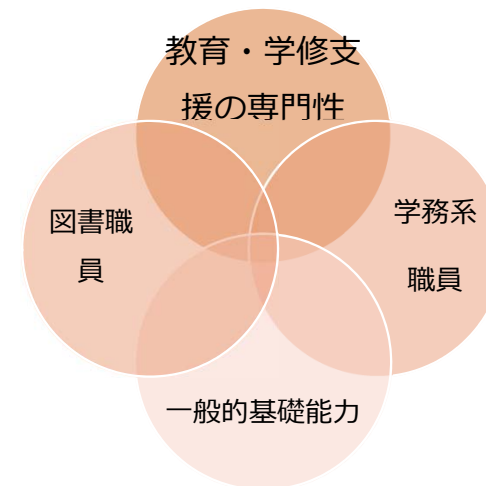
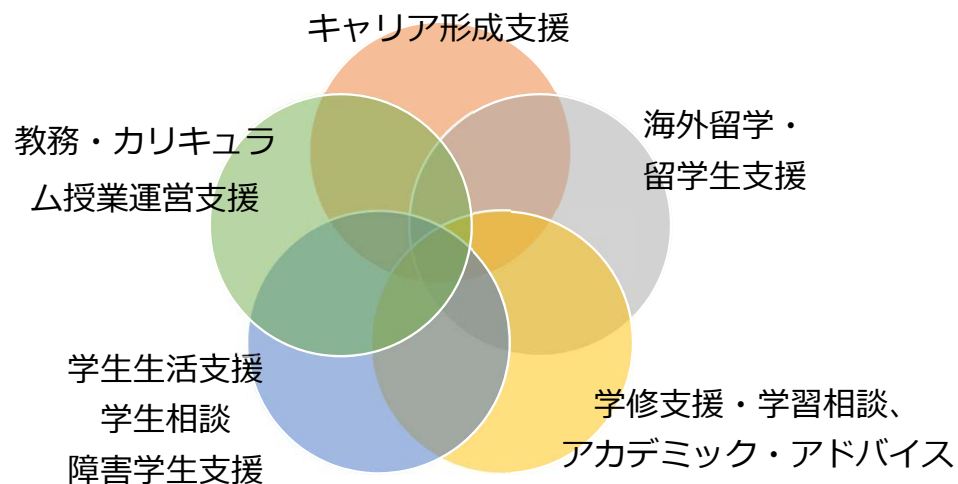
- 学生生活支援、学修相談、障害学生支援
- 海外留学、留学生支援
- キャリア形成支援
- 各部局における教務・カリキュラム・授業運営支援など
- 新学部「国際教養学部」における「**SULA**」の設置と学内展開
 - Super University Learning Administrator
 - 教育・学修支援をone-stopで担う専門職員



学習支援・学習相談の満足度

*名称はいずれも設置当初のもの

「教育・学修支援」の専門性を捉える枠組み



- 大学にある様々な機能や役割の重なり合う部分
- 既存の職制では捉えきれない、新たなニーズを含めた資質・能力

} 汎用性・通用性を持った教育・学修支援についての資質・能力の可視化

2. ALPSプログラムまでのプロセスと全体像

2011年4月：千葉大学アカデミック・リンク・センター設置

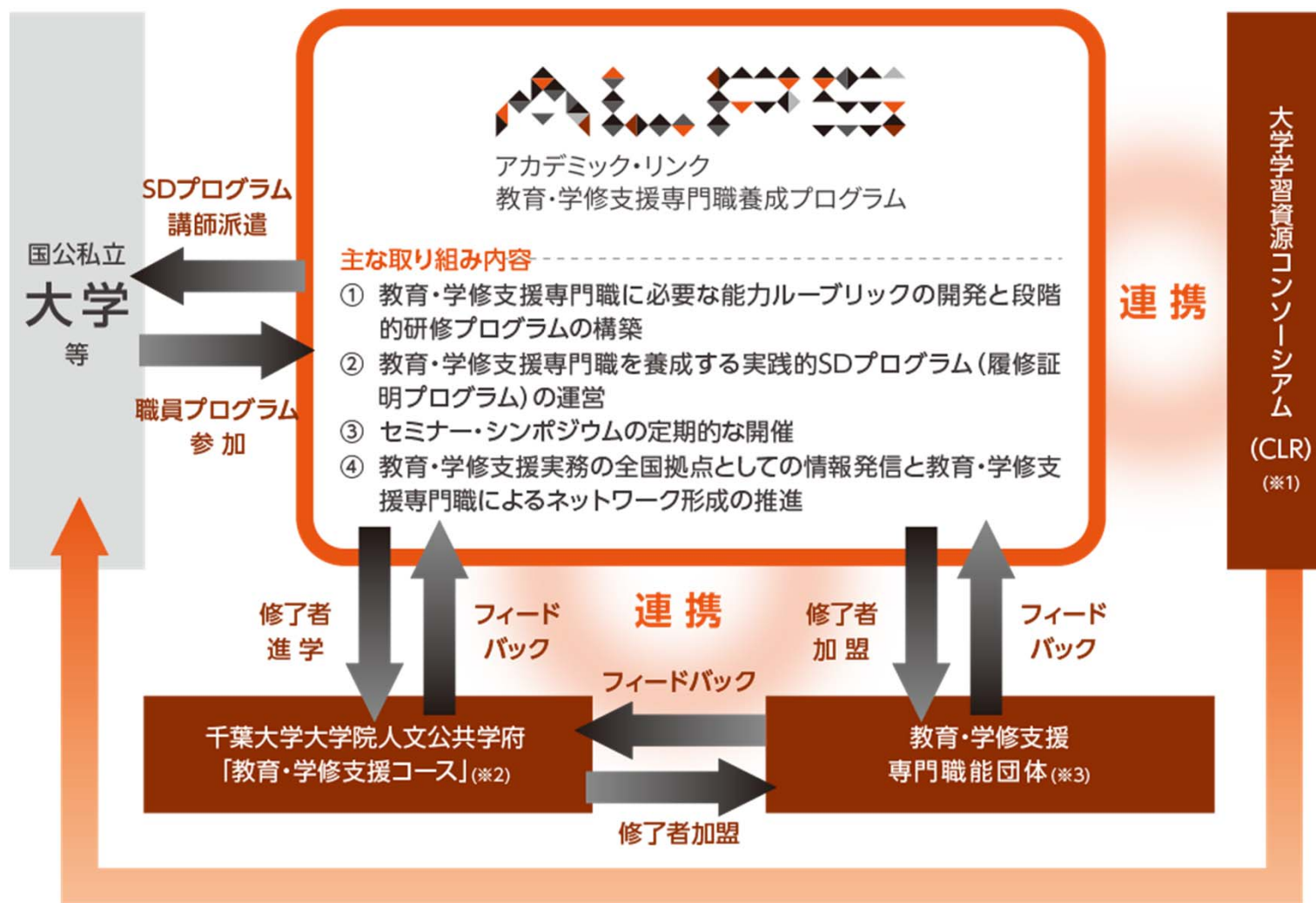
2015年4月：文部科学大臣より「教育関係共同利用拠点」に認定

- 認定期間：2015年7月～2017年3月
 - 「教育・学修支援」の専門性に関する調査研究
 - 能力ループリックの策定
 - カリキュラム・マップの整備
 - ALPSプログラムの設計と一部試行（3コース）

2016年7月：「教育関係共同利用拠点」に再認定

- 認定期間：2017年4月～2022年3月
 - ALPS履修証明プログラムの本格実施



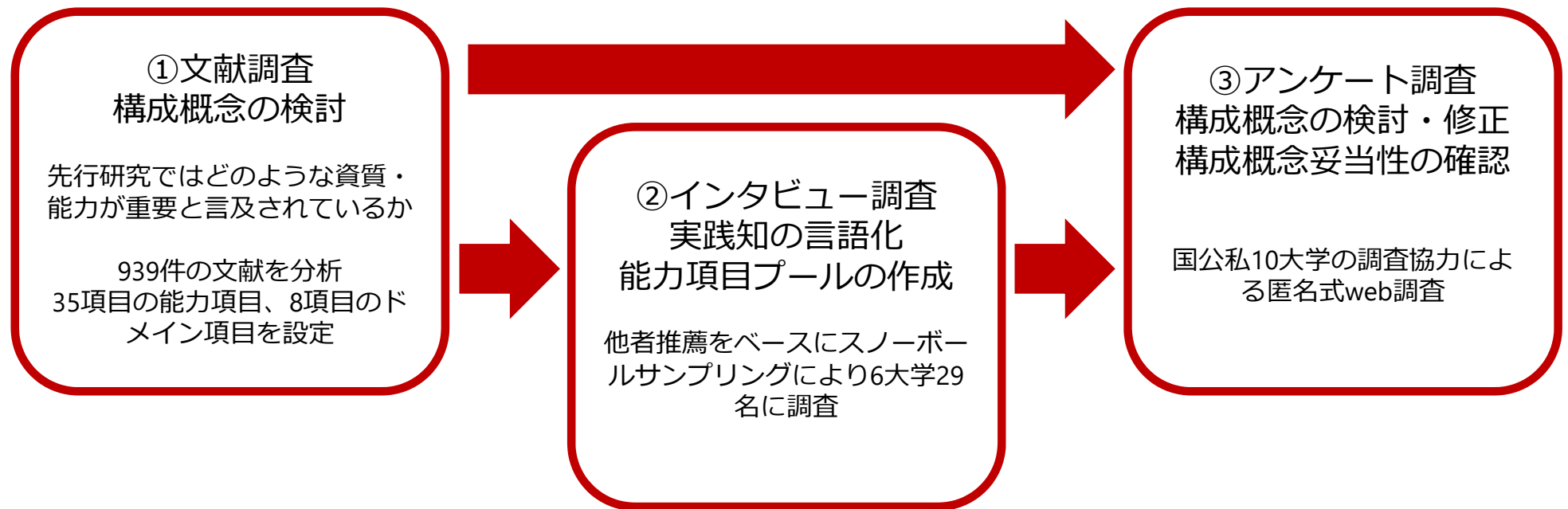


コンソーシアムを通じた大学間ネットワークの強化

3. プログラムはどのように設計されたか？

経験的データからの「教育・学修支援の専門性」の探索・検証

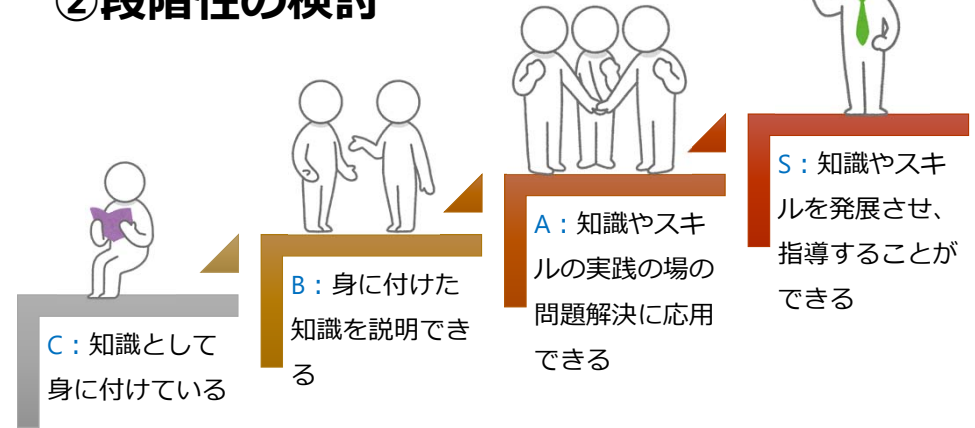
- 図書系職員、学務系職員、教員の本学教職員の協働により3つの調査を実施。
- それぞれの調査詳細は、白川・谷他（2016）、米田・御手洗他（2016）、岡田・白川他（2016）。



①能力ドメイン（領域）の設定

	学生・学修支援への関心	担当業務の遂行	大学職員としての共通性
理解する内容	①学生・学修・教育支援の内容 ・教育内容の把握 ・学生・学修・教育支援の設計と実施 ・学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 ・学生・学修支援の現状理解	②担当業務の内容 ・課題の設定と問題解決 ・情報収集・整理・分析・発信 ・業務に関する知識 ・様々な経験とその活用	③大学についての知識 ・高等教育・社会・教育に関する知識 ・所属大学についての理解
対人関係	④学生への対応 ・学生対応への基本的姿勢・態度 ・留学生への対応 ・困難を抱えた学生への対応	⑤担当業務への取り組み方 ・担当業務の遂行 ・チームワーク	⑥人間関係の構築 ・人的ネットワーク ・教員との連携・協働
基盤的スキル			基盤的スキル ・キャリアアップ・スキルアップの取組 ・ICTスキル・物事を広くみる ・語学 ・フューチャリング ・説明できる力 ・文章作成能力 ・メタ的な能力(社会人としてのコンピテンシー)

②段階性の検討



③能カループリック（試案）の作成

領域	項目	S	A	B	C
①学生・学修・教育支援の内容	・教育内容の把握 ・学生・学修・教育支援の設計と実施 ・学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 ・学生・学修支援の現状理解	学生のニーズを把握し、学修のニーズに合わせた学修支援を実施し、効果的に実施することができる。様々な経験とその活用を踏まえ、業務に関する知識を積極的に活用することができる。	様々な学生に応じた支援内容・方法を選定し、必要に応じて調整・改善することができる。また、所属大学全体の教育の質を向上させ、学修の効果を高めることができる。また、業務に関する知識を積極的に活用することができる。	学修支援に必要となる教育課程における最新の動向、課題、教育方法を把握することができる。また、学生の多様性を理解し、個々の学習上の課題を踏まえ、支援を実施することができる。	教育支援や学修の担当に必要となる教育課程の理解、履修要件を把握している。また、学修支援に必要となる教育課程の基本的な内容や、その意義について理解している。
②担当業務の内容	・課題の設定と問題解決 ・情報収集・整理・分析・発信 ・業務に関する知識 ・様々な経験とその活用	所属業務における課題を把握し、改善することを目指す。データ収集・分析・整理・発信など、業務に関する新たな取り組みや改善案を立案し、実行することができる。	学内外の先進的な取り組み事例を参考にし、自らの担当業務に活用することができる。また、自分の業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。	学内外の最新動向・情報を収集し、担当業務に活用することができる。また、自分の業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。	大学における担当業務を行うにあたって必要な知識を有している。また、学修支援に関する情報や経験、業務に関する知識や経験、業務に関する知識を積極的に活用している。
③大学についての知識	・高等教育・社会・教育に関する知識 ・所属大学についての理解	高等教育の現状について定量的・分析的・総合的に所属大学の教育のあり方について客観的な評価を確立し、実践の中で活用することができる。	高等教育を取り巻く社会・経済情勢や政策動向などから、所属大学の教育の現状について客観的に分析・検討し、組織上の課題的課題を抽出し、解決策や改善案を提示することができる。	大学で教育研究されている専門領域の発展性や内容、構成についての理解を深め、所属大学の教育の特色や強み、課題の抽出や改善案を提示することができる。	学内外の大学に関する歴史や制度、法規、政策、取り組み等に関する基本的な知識を有している。また、所属大学の教育の特色や強み、課題の抽出や改善案を提示することができる。また、キャリアアップやスキルアップなどの教育や学修に関する一般的な知識を有している。
④学生への対応	・学生対応への基本的姿勢・態度 ・留学生への対応 ・困難を抱えた学生への対応	学生の対応に関わる学内外の活用可能な資源の現状について定量的・分析的・総合的に所属大学の教育のあり方について客観的な評価を確立し、実践の中で活用することができる。また、学修支援に関する新たな取り組みや改善案を立案し、実行することができる。	学生への対応に関して、学内外の様々な事例を参考にし、自らの業務に活用することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。	アドバイザーやカウンセラー、コーディネーターなど、学内外の様々な役割や職種の役割や責任を把握し、学内外の様々な事例を参考にし、自らの業務に活用することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。	大学の教育や学修の現状を把握し、学内外の様々な事例を参考にし、自らの業務に活用することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。
⑤担当業務への取り組み方	・担当業務の遂行 ・チームワーク	学内外の最新の動向や、必要に応じて調整・改善することを目指す。データ収集・分析・整理・発信など、業務に関する新たな取り組みや改善案を立案し、実行することができる。	担当業務の遂行に当たり、最先端の取り組みや事例を参考にし、自らの業務に活用することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。	担当業務の遂行や大学全体の教育の現状を把握し、自らの業務に活用することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。	所属大学の教育や学修の現状を把握し、学内外の様々な事例を参考にし、自らの業務に活用することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。
⑥人間関係の構築	・人的ネットワーク ・教員との連携・協働	教員やシニアスタッフの経験や専門知識の活用を促し、学内外に幅広い人的ネットワークを形成し、学内外の様々な事例を参考にし、自らの業務に活用することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。	学内外の様々な事例を参考にし、自らの業務に活用することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。	大学教員の仕事や役割についての理解を深め、所属大学の教育の特色や強み、課題の抽出や改善案を提示することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。	所属大学の教育や学修の現状を把握し、学内外の様々な事例を参考にし、自らの業務に活用することができる。また、業務に関する情報、データや経験、整理・分析の上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。

④カリキュラム・マップの作成

能カループリックの領域	プログラム15テーマ														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
各コースが、ループリックの各領域のS・A・B・Cの段階のどこに対応するかを示したものを															
①学生・学修・教育支援の内容	C	B	C	C	C	C	B	B	B	B	B	C	B	A	A
②担当業務の内容	-	-	C	-	-	B	C	-	-	-	-	-	A	-	-
③大学についての知識	C	B	-	-	C	C	B	-	-	-	-	-	-	-	-
④学生への対応	-	C	B	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑤担当業務への取り組み方	-	-	C	B	-	-	-	C	-	C	C	C	B	A	A
⑥人間関係の構築	C	-	C	B	-	-	C	C	C	C	C	B	C	B	A

段階的で体系的な
研修プログラムの構築

なぜ履修証明プログラムなのか？

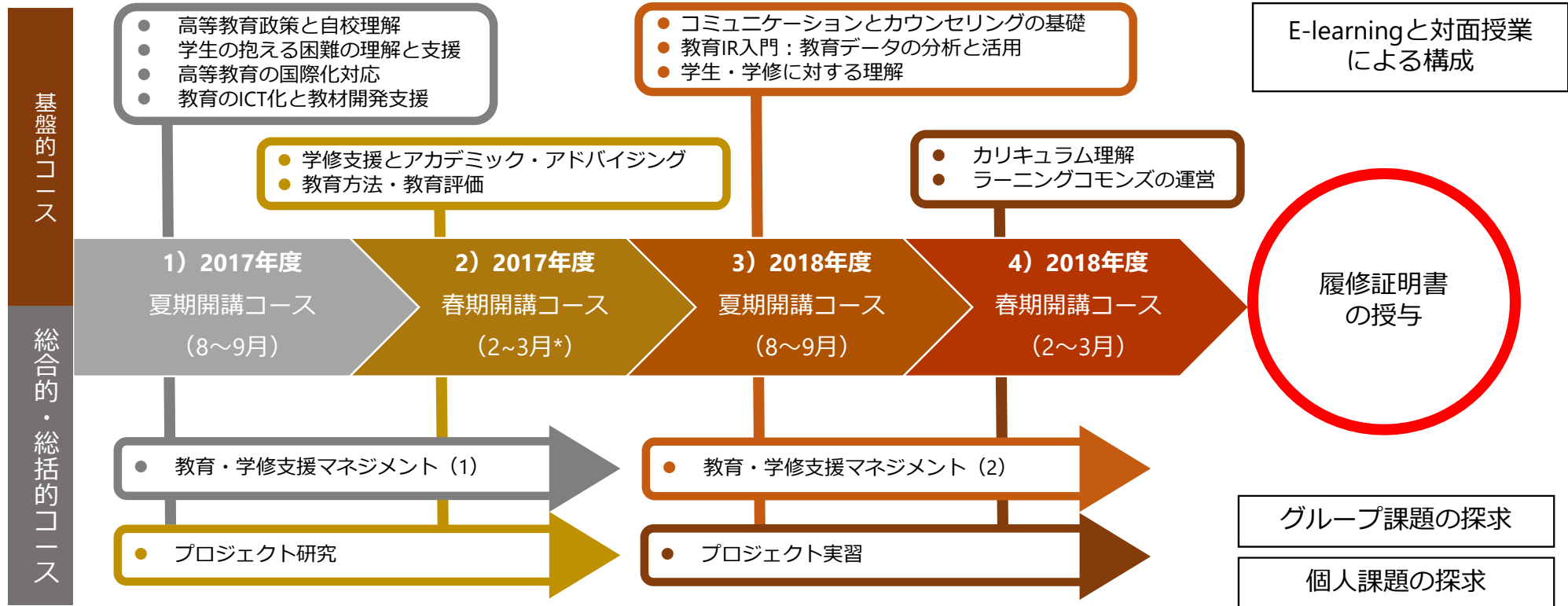
	One-shot SD/FD	履修証明プログラム	学位プログラム（修士）
得られる資格	各機関が独自に発行する修了証等	学校教育法第105条に基づく履修証明書	学校教育法第104条に基づく学位
プログラムとしての規模	1回90分程度～1、2日程度	120時間以上 (施行規則164条に基づく)	2年（標準修行年限） 30単位以上・研究指導 (大学院設置基準16条に基づく)
プログラムとしての体系性	複数回実施等の工夫が必要 (SD/FDマップなど)	プログラム内での設計が可能	プログラム内での設計が可能 (学士課程との差別化は必要)
プログラムの柔軟性	高い	ある程度高い	幾つかの制約あり
学習者に求められる要件	主催者による	各機関によって定める (大学に入学することができる者) (施行規則164条3項)	大卒者 (学校教育法102条)
受講料（学費）	無料が多い	実施主体によって定める	130万円以上 (入学料+2年間の授業料等)

4. どのような学習が行われているか？

- ALPS履修証明プログラムの対象者
 - 現在、教育・学修支援に携わっている／今後携わりたいと考えている大学教職員、大学院生、その他関係者
- 募集定員：30名
- 受講料：年額6万円
- 第1期履修生：31名（所属機関からの推薦・業務命令：39%、自身の希望：61%）

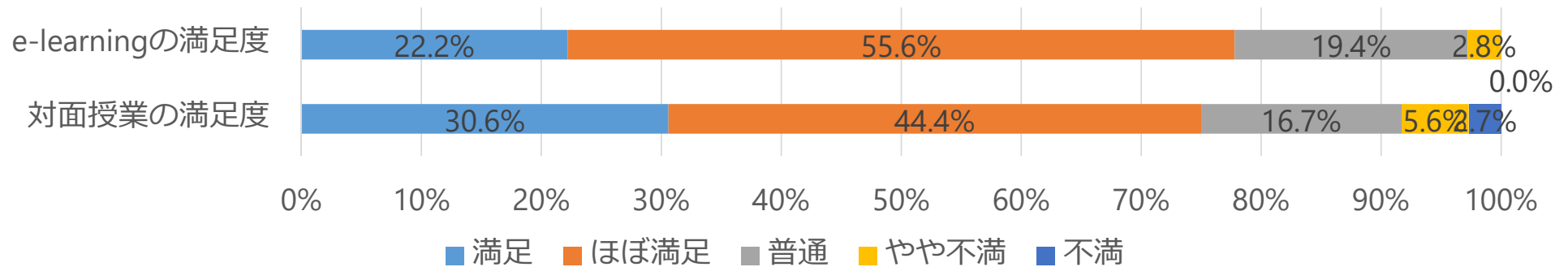


2年間の受講の流れ〈第1期生の場合〉



*一部e-learningのみのコースは5月末まで

履修生の評価と見解



2017年度夏期開講コースの満足度

- 履修生からのコメント（一部）
 - 非常にもりだくさんの内容であった。
 - グループワークが多く盛り込まれており、得るものが多い授業だった。
 - 対面授業での講義型の内容はe-learningとした方が良いのではないか。
 - 業務をしながら、「教育・学修支援マネジメント」と「プロジェクト研究」を同時並行で進めるのは負担が多いように感じた。
 - 春期の対面授業は入試業務の関係で参加しづらい。

5. 今後の方向性 (一部私見含む)

- プログラムとしての効果検証
 - 履修証明プログラムにおける効果測定枠組みの精査と実測
→1期生のpre-post調査をベースとした再検証
- 履修証明プログラムとしての効用最大化
 - 異動や雇用状況の変化への対応
→より集中的で、より柔軟な対応？
- 教育関係共同利用拠点からの持続可能性の模索
 - 履修生をベースとした団体の創設から自律的運営への連動
→持続的なメリット（学習機会）の提供
→プログラムへの意見の反映からプログラム自体の運営
 - 海外団体とのネットワーク形成